

御殿堰 大黒天便り



◆第二八号◆



山形市中心市街を流れる御殿堰。その豊かな水の流れを見守っているのが私「御殿堰大黒天」です。「大黒天便り」では、わたし大黒天が御殿堰歴史・季節の話題・生活の知恵など『なるほど!』と思っていただけの内容をお伝えしていきたいと思っています。今回は第二八号です。

◆干柿づくり隊◆

一〇月一三日(土)・一四日(日)の二日間、「干柿づくり隊」が開催されました。

『干柿づくり隊』は午前中に山形市柏倉地区で柿もぎを行いました。午後は、七日町御殿堰と山形まるごと館紅の蔵にて「干柿づくり」が実施されました。木造町屋の濃茶の壁に、柿の橙色が映えてとても美しい景観です。美味しい干柿になりますように。



◆うまい鮓勸オープン◆

回転ずしとすし料理店「うまい鮓勸」が十月二十九日(月)にオープン致しました。

山形県内では山形南支店(山形市)、天童支店(天童市)に続き三店舗目。御殿堰店は、県内初となる対面式の店舗となります。

「うまい鮓勸」は御殿堰町屋の二階、大通り側に入店。七日町支店限定のお得なランチメニューもごさいます。七日町へお越しの際は、是非お立ち寄りください。



◆熊手市◆

湯殿山神社境内と文翔館前広場が熊手などの露店で賑わいをみせる『熊手市』。露店は湯殿山神社西側の道路に出店します。

日付：十一月二二日(木)
十一月二三(金・祝)

時間：一〇時～一六時
場所：湯殿山神社境内
湯殿山神社西側通路

【問合せ】
村山地区お祭り商業協議会
電話：〇二三(六八一)二九四八



◆出羽国成立 一三〇〇年◆

「出羽国」は山形県を含む地域の旧国名で、和銅元年(七〇八)九月二十八日に越後国に設置された出羽郡を始めとして

います。出羽郡は和銅五年(七一三)九月二三日に出羽国に昇格し、同年一〇月一日には陸奥国から置賜郡・最上郡を編入し、現在の山形県域が出羽国の中にとまり、国としての体制が整ったようです。この和銅五年(七一三)から数えて、今年平成二四年(二〇一三)は一三〇〇年の節目となるのです。

この記念すべき年を迎え、山形県立博物館では、特別展「出羽国成立一三〇〇年」が開催されています。

この企画は平成二三年に実施した企画展「出羽国成立以前の山形」を受けて開催するもの。前年度の企画では、山形県域の旧石器時代から古墳時代までを展示範囲とし、旧石器時代から出羽国以前(七二二年前)までの山形の歴史を、主として考古資料によって振り返っていました。

今年の展示では、和銅五年(七一三)～明治時代の統一山形県成立までの歴史を考古資料と歴史資料・民俗資料を中心として振り返り、出羽国から山形県へのおよそ一三〇〇年間の歴史的な動きを見ることが出来ます。

【開催期間】
二〇一二年一〇月一三日、
二〇一二年一二月九日

【展示時間】
九時～一六時三〇分

【展示会場】
山形県立博物館

【問合せ先】
山形県立博物館
〇二三(六四五)一一一一

山形あれこれ ②② その二

銅町の起源は康平年間(一〇五八～一〇六四)の源頼義が武器製造のために。京都より鑄物工が住みついたのが始まりと伝えられています。

また一三五六年、山形に入部した斯波兼頼が城を築くために谷地から九名の鑄物治(いもじ)を招いたといわれています。

最も史料性のあるものは、義光公が一六〇六年に京都・会津・越前あたりから招き、羽州街道沿いの城北側に定住させたというのが銅治町の始まりと言えます。

兼頼公時代からの工人は九名。義光公時代からの定住者は八名。

江戸末期には、鍛冶師を含めると六〇戸となつて仏具が多く売れたのだそうです。

山形市の都市改造計画は立谷川工業団地への移設から本格的に始まりました。昭和四九年一〇月には、銅町の規模鑄物工業は須川西部の工業団地に移転しました。

往古を語る銅町の区域も、宮町や円応寺待ちと改名され、馬見ヶ崎川の落合橋周辺に銅町一丁目から二丁目があり、小さな町で銅町の代表的なキューポラも旧羽州街道のシンボル塔となりました。

山形の鑄物の伝統技術は、国の指定を受け吾妻兼治郎など国際的に評価される状況にあります。(吾妻作品は市役所前に展示されています)

鍛冶町
桶町 六十里越町
塗師町
材木町 三町

得物町

次号の発行は十二月七日です。来月も皆様と紙面でお会いできるのを楽しみにしています。